

氏名	小 西 寿 一 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	The relationship between <i>NY-ESO-1</i> mRNA expression and clinicopathological features in non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌における <i>NY-ESO-1</i> 発現の臨床病理学的検討)
論文審査委員	教授 清水 憲二 教授 吉野 正 助教授 上岡 博

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

NY-ESO-1は最も免疫原性が高いcancer/testis抗原の一つであり、特異的免疫療法の有力な候補として考えられている。われわれはreal-time RT-PCRを用いて63例の非小細胞肺癌患者に対し*NY-ESO-1*のmRNA発現を調べ、その発現と臨床病理学的因子との相関を検討した。

*NY-ESO-1*の発現は63例中20例(32%)に認められ、病期の進行したものに有意に発現しており($P=0.013$)、特にリンパ節転移症例と有意な相関を示した($P=0.020$)。また、*NY-ESO-1*の発現頻度は病理学的分化度とも相関を認めた($P=0.035$)。しかし、real-time RT-PCRによる*NY-ESO-1*発現の定量的な検討においては、どの臨床病理学的因子とも相関は認められなかった。

以上より、*NY-ESO-1*の発現は非小細胞肺癌においてしばしば認められ、特にリンパ節転移を来した進行例に多く認められた。更に、*NY-ESO-1*が非小細胞肺癌において高頻度に発現していることは、非小細胞肺癌に対する特異的免疫療法の標的となり得ることが示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は最も免疫原性が高い癌／精巣抗原の一つであり、前立腺癌などに対する特異的免疫療法が検討されているNY-ESO-1について、その発現を非小細胞肺癌検体において定量的に検討したものである。本研究者は非小細胞肺癌63検体につき、本遺伝子の発現を半定量的 Real-time RT-PCR法によって測定し、その発現の程度と癌の臨床病理学的な特性との相関も検討した。その結果、NY-ESO-1の発現は63例中20例(32%)に認められ、病期の進行したもの($P=0.013$)、リンパ節転移陽性例($P=0.020$)と有意な相関を示した。また、その発現頻度は腫瘍の病理学的分化度とも相関し、中～低分化型に高い傾向があった。しかし、その発現の定量的分析では臨床病理学的な性質とは相関しなかった。

これらのことからNY-ESO-1は非小細胞肺癌の約三分の一に認められ、しかも進行例や中～低分化型肺癌に高頻度に見られたことから、このタイプの癌においても特異的免疫療法の標的となりうることを示された。

以上のように、本研究はNY-ESO-1が非小細胞肺癌においても発現しており、特異的免疫療法の標的となりうることを示したもので、意義ある研究成果と認めた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。